

令和元年度(平成31年度)  
全国学力・学習状況調査  
結果の分析と考察

# 長沼町の児童生徒の 学力や生活習慣は？

【 長沼町教育委員会 】

令和元年1月発行

## ○全国学力・学習状況調査について(平成31年4月18日実施)

この調査は、

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること
  - (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てること
  - (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること
- という目的で、文部科学省が平成19年度より実施しています。

教科に関する調査では、これまでA調査(主として「知識」に関する問題)・B調査(主として「活用」に関する問題)として実施していたものを一体化し、「身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等」に関する問題として、**【国語、算数・数学】**を、加えて令和元年度(平成31年度)は、中学校で**【英語】**(「聞くこと」「読むこと」「書くこと」についての調査\*「話すこと」は参考実施)を実施しました。

教育委員会では長沼町教育の充実に資するため、今年度も、町内の全小学校「6学年」及び中学校「3学年」を対象に本調査に参加しました。

今年度の調査における全体的な学力・学習状況については、小学校は、全国・全道とほぼ同様の傾向となりました。国語の「読むこと」領域や算数の「図形」領域は達成されましたが、国語の「言語」領域や算数の「量と測定」領域でやや課題が見られました。中学校では、全道・全国とほぼ同様又はやや高い傾向となり、ほとんどの問題で達成・おおむね達成されましたが、英語の「書くこと」領域にやや課題が見られました。また、学習習慣や生活習慣等に関する状況については、ほとんどの質問項目で全道・全国より良好な傾向でしたが、家庭での学習時間が短いことや毎朝朝食を食べる割合が低いことなどの課題が見られました。

教育委員会としては、これまでの取組の成果と課題を客観的に判断し、今後の対策を明確にしていくことが重要であり、子供たちの学力向上のためには、保護者、町民の皆様と成果と課題などを共有し、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことが不可欠であると考えています。

なお、調査結果については全国・全道との比較ではなく、今年度の問題の傾向から、

「達成」 正答率：70%以上

「おおむね達成」 正答率：50%以上70%未満

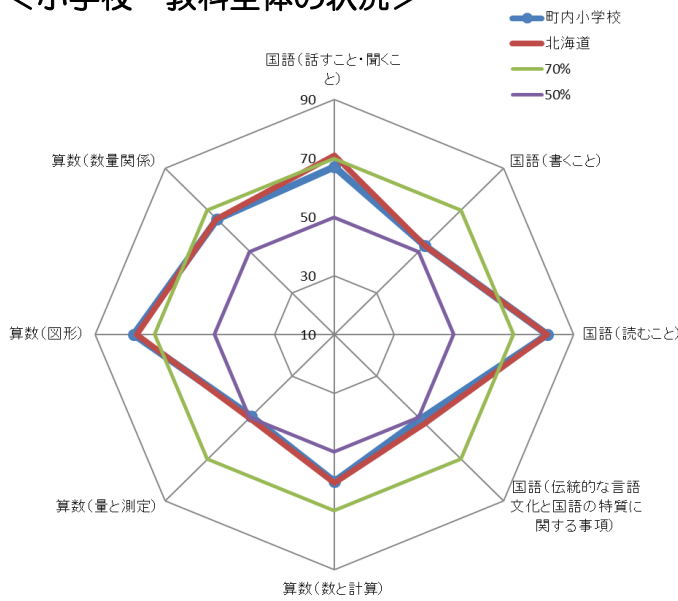
「課題」 正答率：50%未満

と表記しています。

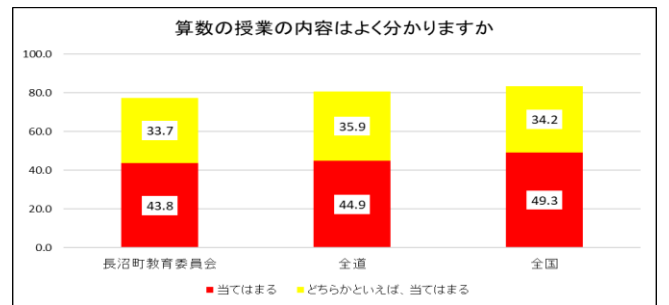
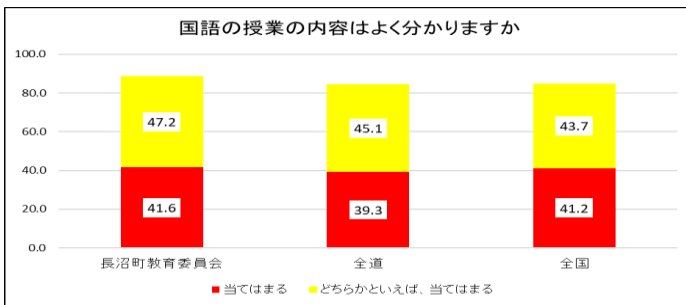
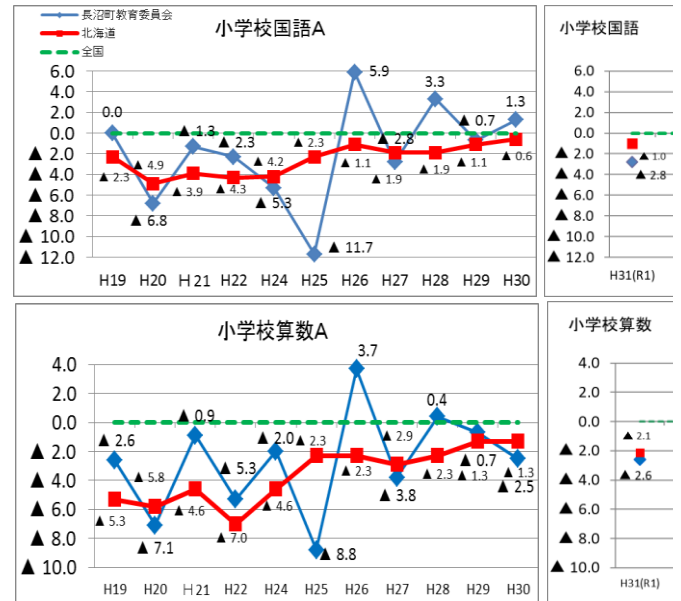
また、成果や課題の中から特に指導の改善が必要であるものは、その出題の趣旨を踏まえ児童生徒に身に付けさせなければならない力を分析し、授業改善を通して児童生徒一人一人に確かな学力が身に付くことを目指しているところです。

# 長沼町の児童生徒の学力の傾向

## ＜小学校 教科全体の状況＞



## ＜平均正答率の全国との差の推移＞\*～H30はA問題のみ



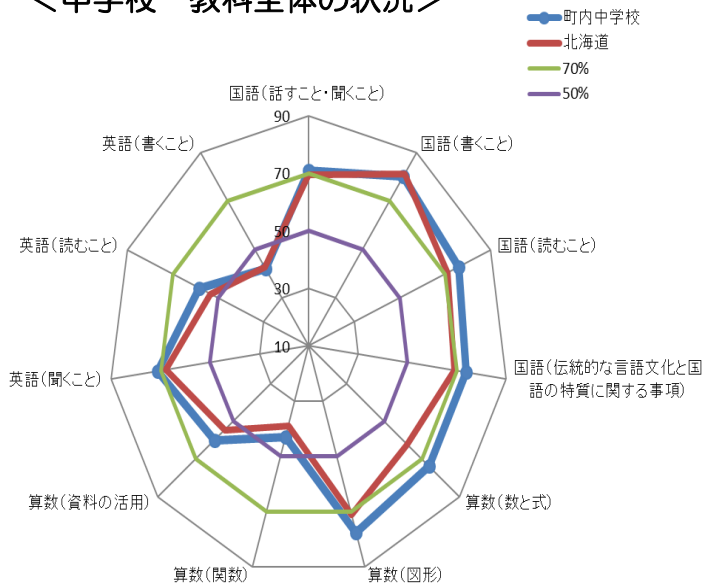
### 国語 ～おおむね達成～

- 漢字の学習では、読み方や字形に注意して繰り返し練習するだけでなく、漢字のもつ意味を考えながら、文や文章の中で正しく使えるように指導していく必要がある。
- インタビューなどで情報を集める学習では、あらかじめ用意した質問を予定した順序で聞くだけでなく、話の展開に沿って、目的に応じた質問ができるようにする必要がある。
- より説得力をもって自分の考えを伝えるため、事実と考えを区別して書いたり、理由を明確にして自分の考えをまとめたり、調べて分かった事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えを関連付けて書いたりする場面を位置づける必要がある。

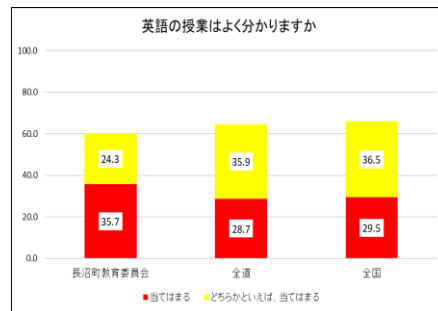
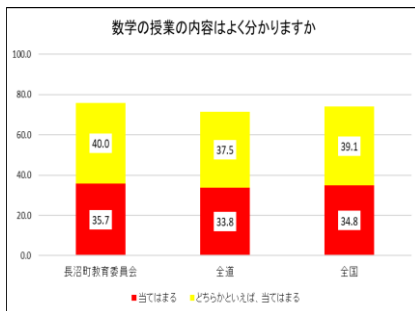
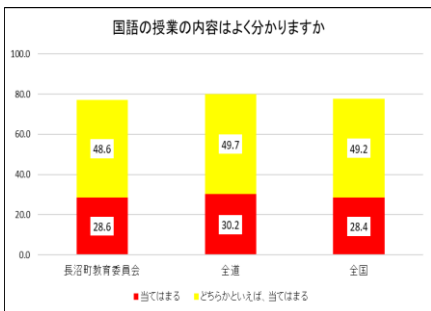
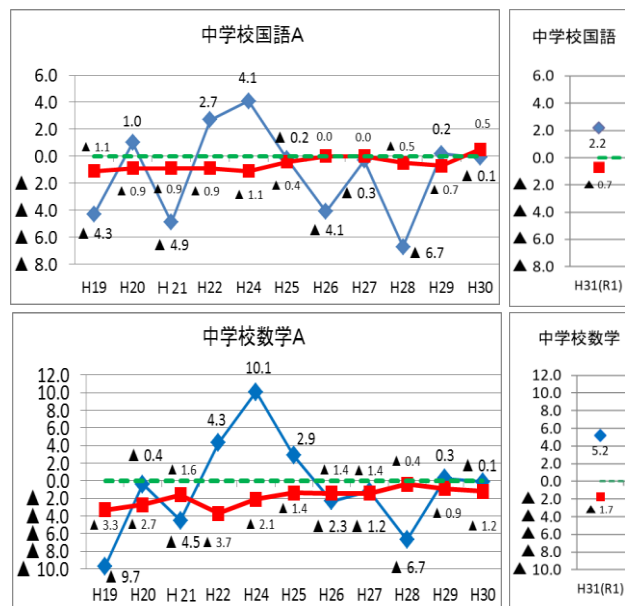
### 算数 ～おおむね達成～

- 計算の順序についてのきまりは、問題場面と照らし合わせながら、四則を混合させたり、 $()$  を用いたり、複数の式を一つの式に表したりすることが大切である。また、立式した後、それぞれの式が何を表しているのかを説明できるようにするなど、式の意味についての理解を深めることができるように指導する必要がある。
- グラフなど資料の特徴や傾向を読み取る際には、目的に応じて、差を求めたり、何倍かを求めたりすることで、資料の中の数量の大きさの関係を読み取ることができるように指導する必要がある。

## <中学校 教科全体の状況>



## <平均正答率の全国との差の推移> \*~H30はA問題のみ



### 国語 ～達成～

- 目的や意図に依じて、読みやすく分かりやすい文章にするために、事実や事柄、意見や心情が読み手に効果的に伝わるように説明や具体例を加えたり、表現しようとする内容に最もふさわしい語句を選んだりすることに留意して書くように指導する必要がある。

### 数学 ～おおむね達成～

- どの領域でもバランスよく学力が身につけているといえるが、資料から最頻値を読み取る問題のみやや正答率が低かった。目的に応じてデータを収集して整理し、データの傾向を読み取る活動を取り入れ、データの代表値を求めたり、代表値を用いてデータの傾向を説明したりする場面を設定するなどの指導が大切である。

\*最頻値：データ群や確率分布で最も頻繁に出現する値のこと。

\*代表値：資料の特徴や傾向を示す客観的な尺度となる数値。平均値・最大値・中央値など。

### 英語 ～おおむね達成～

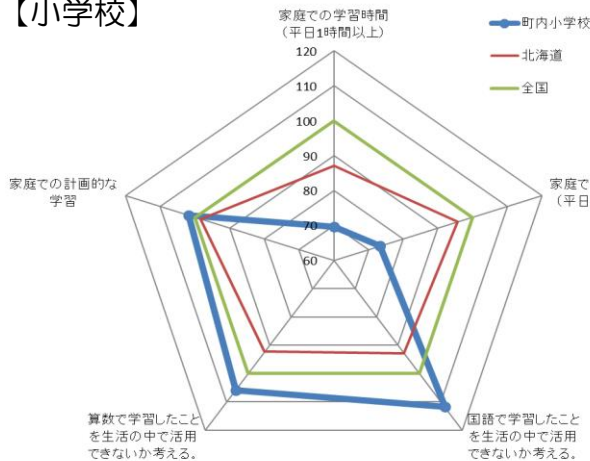
- 言語材料を正しく用いて、伝えたい内容が読み手に伝わるように正確に文を書く力を身に付けることが大切である。そのために、授業を実際のコミュニケーションの場面とし、様々な知識を活用させて文を書かせたり、生徒の誤りを生徒自身に考えさせたりする指導を通して、実際のコミュニケーションで活用できる程度の技能を身に付けさせる指導が必要である。

# 児童生徒の学習習慣や生活習慣の傾向 ～児童生徒質問紙調査から～

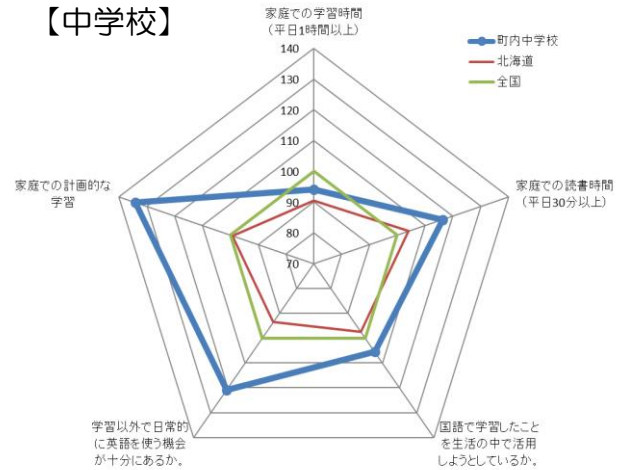
○生活習慣や学習環境などに関する質問を「学習習慣」「生活習慣」「自尊心・規範意識」などの三つの項目におおまかに分類し、本町の傾向を分析しています。（※全国の値を100とした指数で示しています）

## 1. 学習習慣

### 【小学校】



### 【中学校】



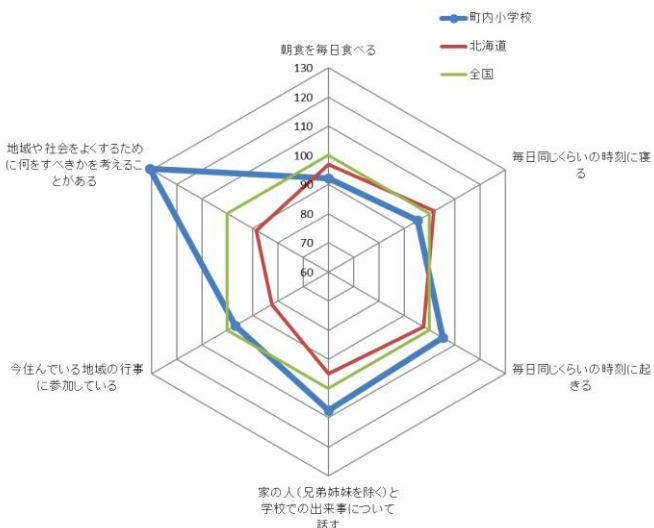
- 平日の家庭での学習時間は、特に小学校で短い傾向にあり、数年間同様の傾向が見られる。家庭で計画的に学習に取り組む児童生徒の割合は、小学校、中学校ともに全道平均を上回っており、定着してきている。
- 平日の読書時間については、小学校で全道平均を下回っている。
- 学習したことを生活の中に活かそうとする意識は、小学校、中学校ともに高い傾向にある。

○家庭での学習への質と量の確保のため、実態に合った家庭学習の課題を出すと共に小・中学校一斉に実施している「家庭学習強化週間」などを活用し、児童生徒が主体的に学習に取り組めるよう、具体的な指導を行う必要がある。

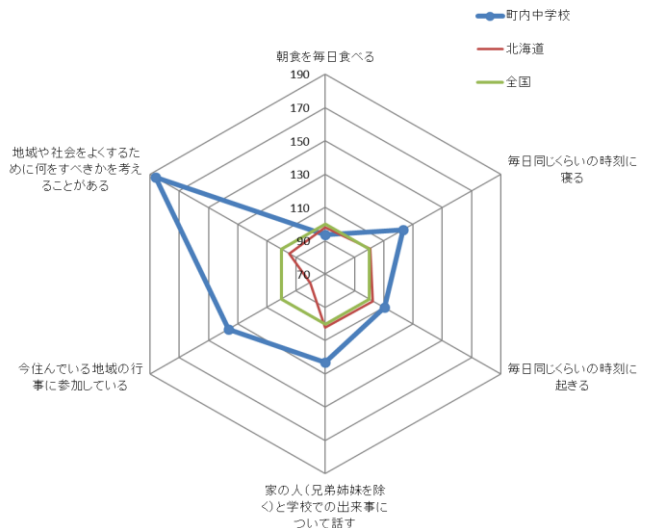
○学校における教育活動の中だけでなく、あらゆる機会を通して、読書の楽しさを知らせ、読書の質を上げていく指導が必要である。今年度から実施している「長沼町読書週間」の取組などをもとに、学校図書館や町図書館など関係者が相互に連携した取組を進める必要がある。

## 2. 生活習慣

### 【小学校】



### 【中学校】



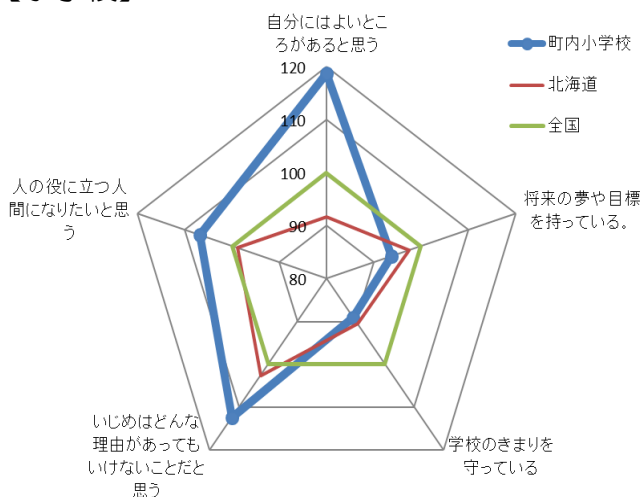
- 朝食を毎日食べている児童生徒は、小学校では約80%、中学校では約77%と全道よりやや低い傾向にある。
- 規則正しい起床・就寝については、起床時刻が決まっているとの回答は、小学校・中学校ともに全道よりやや高くなっているが、就寝時刻が決まっているとの回答は、小学校が約41%と全道よりやや低く、不規則な面が見られる。
- 学校での出来事について家の人に話をすることは、小学校・中学校ともに全道より高い傾向にある。
- 地域行事へ参加することは、小学校・中学校でばらつきがあるが、地域や社会をよりよくしたいという意識は、小学校・中学校ともに高い。

○生活リズムチェックシートなどを活用し、家庭との連携を一層強め、学習習慣や生活習慣の改善・向上を図る必要がある。「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣化については、今後も継続していく必要がある。

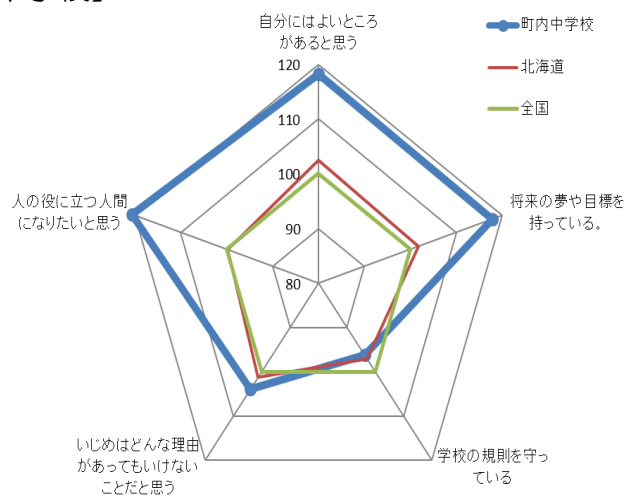
○スマートフォンなどの所持率が高くなってきていることに鑑み、一層のモラル教育の充実を図り、使用のルールをきちんと定めるよう働きかけると共に、今後も親子での対話の時間を大切にすることも心掛ける必要がある。

### 3. 規範意識・自尊意識について

【小学校】



【中学校】



- 「自分にはよいところがある」との回答は、小学校で約46%・中学校で約34%であり、自分の良さについての自己評価が高い傾向にある。
- 「将来の夢や目標を持っている」については、小学校ではやや低い傾向にあるものの、中学校では、全道より高い。
- 「学校のきまり（規則）を守っている」との回答は、小学校では約42%・中学校では約64%となっており、全道と比較して意識がやや低い。
- 「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」については、小学校で90%以上、中学校で80%以上がそう思うと回答しており、全道より高い。
- 「人の役に立つ人間になりたい」という意識は、小学校・中学校ともに全道と比較して高い傾向にある。

○学習場面・生活場面で児童生徒の努力を認め、励ます指導を心掛けると共に、道徳の時間を中心とした心の成長を促す教育（自尊感情を高める、他者を思いやる、成就感を高める、規範意識の醸成など）の一層の指導の充実が必要である。

○将来の夢を持たせるキャリア教育など、自分の可能性を伸ばす指導の一層の充実が必要である。

## 長沼町の児童生徒の学習と生活の充実のために

◎ 学校では、「子供たち一人一人の学びをしっかりと支える教育（誰ひとり置き去りにしない教育）」を目指します。

- 1 基礎的・基本的な学習内容の確実な習得と思考力・判断力・表現力を高める指導に努めます。
  - (1) 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善に努めるなど、研修に努めます。
  - (2) 統一感のある学習スタイルや教室環境づくりを徹底します。
  - (3) 放課後や長期休業中の学習のサポート、チャレンジテストの活用、宿題や家庭学習など、学びの意欲を高める取り組みを支援します。
- 2 子供の自尊感情を育てる取り組みを推進します。
  - (1) 一人一人の子供に寄り添った「わかる」授業づくりを継続します。
  - (2) 道徳の授業を充実させ、学校行事等の教育活動全般で、児童生徒に自信を持たせたり、成就感を持たせたり、自分の良さに気付かせたりする活動を意図的に計画し取り組みます。
- 3 子供の体力向上の取り組みを推進します。
  - (1) 新体力テストに学校全体で取り組み、継続的な指導を行います。
  - (2) 各校で特色のある体力向上策「1校1実践」を推進します。

◎家庭・地域では、学校、PTAと連携・協力して、子供の生活習慣を見直し、家庭学習や読書習慣の定着に向けた取り組みをお願いします。

- 1 「早寝・早起き・朝ごはん」による生活リズムの確立に努めましょう。
- 2 確かな学力を育むため、宿題や家庭学習（予習・復習）の時間の確保など、学校と協力して学習習慣を改善しましょう。
- 3 テレビ・ビデオ、ゲーム、スマートフォンなどについて、家庭でのルールづくりをし、利用のさせ方に留意しましょう。
- 4 家庭での手伝いや勤労体験を通し、家族の一員としての自覚を育みましょう。
- 5 地域の大人が子供に関わり、子供たちの地域や社会への関心を高め、地域ぐるみで子育てを推進しましょう。

◎教育委員会では、学校と連携して、子供たちの確かな学力の定着に向けた取り組みを進めていきます。

町学習支援員や非常勤講師の配置を生かしたきめ細やかな少人数指導体制の充実、ICT 関連教育機器の充実、小中連携事業の取り組みなど、教育環境と指導の在り方を充実させます。また、放課後や長期休業中の学習サポートや子供の安全見守りなどの学校支援活動をはじめ、放課後子供教室や土曜学習の実施などによる家庭教育への支援を通して、地域教育活動を活性化するための取り組みを推進し、一人一人の子供たちが学びやすい環境づくりを進めます。